

| |
|--------------|
| 計画期間 |
| 令和2年度～令和12年度 |

砺波市酪農近代化計画書

令和3年9月

富山県砺波市

目 次

| | | |
|-----|-------------------------------|---|
| I | 酪農生産の近代化に関する方針 | 1 |
| II | 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標 | 2 |
| 1 | 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標 | 2 |
| III | 酪農経営の改善の目標 | 3 |
| 1 | 酪農経営 | 3 |
| IV | 乳牛の飼養規模の拡大のための措置 | 4 |
| 1 | 乳牛 | 4 |
| V | 国産飼料基盤の強化に関する事項 | 5 |
| VI | 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置 | 6 |
| 1 | 集送乳の合理化 | 6 |
| VII | その他酪農生産の近代化を図るために必要な事項 | 6 |

I 酪農生産の近代化に関する方針

1 酪農をめぐる近年の情勢と課題について

(1) 砺波市における酪農の役割・機能

酪農は、飼料生産、生乳の生産・加工・流通等を通じて、裾野の広い関連産業を形成し地域の雇用創出にも貢献している。

(2) 砺波市における酪農の現状と課題

本市の畜産業は、高齢化に伴い、飼養戸数・頭数ともに減少傾向となっていることに加え、T P P 11、H E U ・ E P A、日米貿易協定が発行する等、今後の畜産をめぐる情勢は一層厳しいものとなってきている。

このため、こうした状況でも、未来に希望もてる畜産を推進するため、本市における課題を次のように整理した。

①生産基盤の強化

- ・酪農経営の増頭・増産
- ・収益性の高い経営の育成、経営資源の継承
- ・経営を支える労働力や次世代の人材の確保
- ・国産飼料基盤の強化

②酪農生産の持続的な発展

- ・災害に強い畜産経営の確立
- ・家畜衛生対策の充実・強化
- ・持続的な経営の実現と畜産への信頼・理解の醸成

(G A P等の推進、資源循環型畜産の推進、安全確保を通じた消費者の信頼確保、畜産業や畜産物に対する理解醸成、食育等の推進)

2 近代化への対応方針

本市では、国及び、県の施策を積極的に活用し、意欲ある畜産農家が将来に希望を持ち、畜産に取り組めるよう、市、関係団体が一丸となって各種振興策を行う。

(1) 酪農経営の増頭・増産

飼養戸数・頭数の減少の一方で、1戸あたりの飼養頭数は増加傾向であり、生産規模拡大に前向きな農家もある。こうした農家に対しては、関係団体と連携しながら国の畜産クラスター事業等の活用を図る。また、乳用後継牛等の価格の高騰に対応するため、性別技術活用による優良な乳用後継牛の確保や受精卵移植技術等による生産の拡大をバランス良く推進するとともに、乳用牛の供用期間の延長などに、県や市、関係団体、生産者が一体となって取り組み、生産基盤の維持・拡大を目指す。

(2) 収益性の高い経営の育成、経営資源の継承

農家の高齢化や後継者不足により、本件の飼養戸数は減少が続いており、この課題解決にあたっては、収益性の高い経営による一定の所得の確保が必要であり、そのためには規模拡大を行わずとも生産性の向上を図ることが重要である。

このため、家畜改良を推進し高能力の牛群を整備するとともに、牛舎内飼養環境の改善や事故率の低減、供用期間の延長等の飼養管理技術の向上を図る。また、ロボット、I C T、I o T、A Iといった新技術を活用したD X (デジタル化による変革)の実現に向けた取り組みを推進する。

さらには、離農施設の再活用による新規就農支援や外部支援組織の活用、省力化につながる施策(放牧、分娩監視装置等の省力化機械の導入)の展開等により、高齢化の進んだ農家でも経営が継続でき、かつ、意欲のある若手が新規就農して自らの夢をかなえることのできる環境を支援することにより構築する。

(3) 経営を支える労働力や次世代の人材の確保

酪農生産は、労働負担が大きいこと、習得が必要な技術も多岐にわたること、施設投資のみならず、家畜の導入等で多くの資金が必要であること等から、労働力や人材の確保を進めることが重要である。このため、コントラクターや酪農ヘルパー等の活用や法人経営等への雇用就農も促進する。

また、女性や外国人材などが安心して働きやすい環境を整備し、能力や条件に応じた活躍が可能となるような環境整備を推進する。

(4) 家畜排せつ物の適正管理と利用の促進

畜産の経営継続には地域の環境と調和した環境対策が必須であり、生産者は家畜排せつ物を適正に管理し、地域住民の理解を得るよう努める。

また、家畜排せつ物処理施設については、近年、老朽化が進行しているため、堆肥舎や汚水処理施設の長寿命化を進める。

県や関係団体は、たい肥の地域内循環体制の構築を支援する。

(5) 国産飼料基盤の強化

輸入飼料の高止まりという状況のなかで、飼料用米等による飼料自給率の向上を図ることは、生産経費の削減や地域内資源循環の推進に対して有効である。市としては、地域の結びつきと需要に合わせ、市内利用を中心としたマッチングを耕種農家・仲介業者・関係団体等と実施し、飼料用米の生産利用の拡大を図るとともに、集落営農組織やコントラクター法人の活用による労働負担の軽減・作業の効率化により生産コストの低減を図る。

また、濃厚飼料の輸入とうもろこしの代替品として、飼料用米の多収品種の利用やエコフィードの安定的な原料調達により更なる活用を推進する。

(6) 災害に強い畜産経営の確立

国内では近年、地震や台風、大雨等の大規模な災害が頻発しており、これらの災害への備えは酪農生産の持続的な発展にとっても重要である。このため、災害への備えは各経営の責務であり、非常用電源の整備や飼料の備蓄、家畜共済や保険への加入等、各経営で行うことのできる必要な備えを促進する。

(7) 家畜衛生対策の充実・強化

口蹄疫等の家畜の伝染性疾病は、生産者のみならず関係する地域経済にも大きな影響を及ぼす。また、乳房炎等の慢性疾病も生産性の低下につながるものである。このため、生産者はこれら疾病の予防を意識し、飼養衛生管理の責任者の選定や講習会への参加、飼養衛生管理基準の遵守を基本とした衛生管理の徹底や異常確認時の早期通報等に努める。

市、関係団体は、飼養衛生管理基準の遵守指導、発生時の円滑・迅速な防疫措置のための準備の徹底を図るなど、地域における自衛防疫を中心とした防疫体制を構築する。

(8) 持続的な経営の実現と畜産への信頼・理解の醸成

畜産物の安全確保のために、製造・加工段階でのH A C C Pの普及を促進していく必要がある。乳業工場は、国の支援も活用しながらH A C C Pを用いた衛生管理基準に取り組むように努める。また、持続可能で付加価値の高い畜産物生産に資するため、G A PやH A C

ＣＰの実施と認証取得を推進するとともに、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理に努める。

持続的な発展のため、家畜排せつ物を適正に管理し環境に配慮した経営を行うとともに、飼料や農作物生産に地域で生産される堆肥等を活用し、資源を循環させる取組みに努める。

生産者が加工・流通業者と一体となって、安定供給、食品の安全、消費者の信頼を確保するため、畜産物等の製造・加工段階でのHACCPに基づく衛生管理等の着実な実施を推進する。

畜産農家が、消費者のニーズを踏まえ、畜産物の高付加価値化のため、6次産業化に取り組むことは所得向上を図る有効な取組みであるが、課題も多いことから市や関係団体は、経営指導も含めてその支援を行う。

生産者や畜産関係者等は、地域への貢献、地域活動への参画を通じて、生産現場や畜産物への理解醸成の取組みを促進する。

3 目標達成へ向けて目指すべき姿

酪農生産について、国の基本方針では、「現在は、拡大が見込まれる国内外の需要に対して、安定的に国産畜産物を供給するための生産基盤回復のスタート地点に立っているということができる。」と表現しており、今後、安定的な畜産物供給に向け、生産基盤を充実することにより増産に取り組む必要に応える必要がある。

こうした中、本市では、農家所得を向上させ経営継続を可能にするとともに、国の畜産クラスター事業等の推進により、地域と連携した畜産基盤の整備・強化に取り組む生産者を支援するとともに、畜産農家を支える関係者が一丸となり、県の畜産振興施策も活用し、「意欲ある農家が将来に希望を持ち畜産に取り組める砺波市」の実現を目指し、目標達成へ向けた取組みを推進する。

II 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

| 地域名 | 地域の範囲 | 現在（平成30年度） | | | | | 目標（令和12年度） | | | | |
|-----|-------|------------|------|-------|---------------|-------|------------|------|-------|---------------|-------|
| | | 総頭数 | 成牛頭数 | 経産牛頭数 | 経産牛1頭当たり年間搾乳量 | 生乳生産量 | 総頭数 | 成牛頭数 | 経産牛頭数 | 経産牛1頭当たり年間搾乳量 | 生乳生産量 |
| | | 頭 | 頭 | 頭 | kg | t | 頭 | 頭 | 頭 | kg | t |
| 砺波市 | 全域 | 274 | 215 | 206 | 7,417 | 1,528 | 311 | 236 | 224 | 9,000 | 2,016 |
| 合計 | | 274 | 215 | 206 | 7,417 | 1,528 | 311 | 236 | 224 | 9,000 | 2,016 |

(注) 1. 成牛とは、24ヶ月齢以上のものをいう。以下、諸表において同じ。

2. 生乳生産量は、自家消費量を含め、総搾乳量とする。

3. 「目標」欄には、計画期間の令和12年度の計画数量を、「現在」欄には原則として平成30年度の数量を記入すること。以下、諸表において同じ。

Ⅲ 酪農経営の改善の目標

1 酪農経営方式
単一経営

| 方式名 (特徴となる取組の概要) | 経営形態 | 経営概要 | | | | | 生産性指標 | | | | | | | | | | | | | | 備考 | | |
|-------------------------------|------|-------|-------------|----------|------|-------------|------------|------|--|----------------|--------------------------|-------------------|-------------|--------|-----------|-----------|------|---------------|--------|--------|-------|-----|-----|
| | | 飼養形態 | | | | | 牛 | | 飼料 | | | | | | 人 | | | | | | | | |
| | | 経産牛頭数 | 飼養方式 | 外部化 | 給与方式 | 放牧利用(放牧地面積) | 経産牛1頭当たり乳量 | 更新産次 | 作付体系及び単収 | 作付延べ面積※放牧利用を含む | 外部化(種類) | 購入国産飼料(種類) | 飼料自給率(国産飼料) | 粗飼料給与率 | 経営内堆肥利用割合 | 生産コスト | 労働 | | 経営 | | | | |
| | | | | (ha) | kg | 産次 | kg | ha | | | % | % | 割 | 円(%) | hr | hr | 万円 | 万円 | 万円 | 万円 | | | |
| 機械化・新技術活用等により省力化と収益性向上を図る法人経営 | 法人経営 | 100 | フリーストールパーラー | 公共牧場ヘルパー | TMR | - | 9,000 | 4.2 | イタライ(3,400kg/10a) ソルガム(4,200kg/10a) | 50 | ・コントラクター ・耕種 ・WC S | ・コントラクター ・WC S | 50 | 50 | 9.9 | 118.2(93) | 81.9 | 10,739(1,900) | 13,323 | 10,636 | 2,687 | 946 | 砺波市 |
| 新技術活用と外部化により経営の安定化を図る家族経営 | 家族経営 | 50 | 繋ぎ飼い | 公共牧場ヘルパー | TMR | - | 9,000 | 4.2 | イタライ(3,400kg/10a) ソルガム(4,200kg/10a) | 25 | ・コントラクター ・耕種 ・WC S | ・コントラクター ・WC S | 50 | 50 | 9.9 | 115.2(95) | 99.1 | 6,231(1,900) | 6,477 | 5,183 | 1,294 | 702 | 砺波市 |

- (注) 1. 「方式名」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に掲げる方式を適用すべき区域名等を記入すること。
 2. 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化部門に係る指標を分けて記入すること。
 3. (注) 1, 2については、「2肉用牛経営方式」についても同様とする。

IV 乳牛の飼養規模の拡大のための措置

1 乳牛

(1) 地域別乳牛飼養構造

| 地域名 | | ① 総農家数 | ② 飼養農家 戸数 | ②/① | 乳牛頭数 | | 1戸当たり 平均飼養 頭数 ③/② |
|-----|----|-----------|-----------------|-----------|----------|-----------------|----------------------------|
| | | | | | ③ 総数 | ④ うち成牛 頭数 | |
| 砺波市 | 現在 | 戸 900 | 戸 4 (-) | % 0.44 | 頭 274 | 頭 215 | 頭 69 |
| | 目標 | / | 3 (-) | / | 311 | 236 | 104 |

(注) 「飼養農家戸数」欄の()には、子畜のみを飼育している農家の戸数を内数で記入する。

(2) 乳牛の飼養規模の拡大のための措置

① 規模拡大のための取組

- ア 飼養規模や飼養形態（繋ぎ方式、フリーストール方式）に対応した飼養管理技術の普及・定着を図る。
また、TMRを活用した児童給餌システムや搾乳ユニットの自動搬送システム、フリーストール・ミルクングパーラーシステム等の導入を進め、省力化とともに飼養規模の拡大を図る。
- イ ICT、IoT、AIといった新技術を活用したDX（デジタル化による変革）の実現に向けた取組みを推進し、生産性の向上や生産コスト削減、労働負担の軽減等を図る。
- ウ 一定数の空きスペースのある既存牛舎を有効活用し、新たな施設投資を抑えながら、初妊牛の導入を進め、増頭を推進する。
- エ 畜産クラスター事業を積極的に活用し、牛舎や堆肥舎の改築を行い、飼養規模の拡大を図る。
- オ 性別別技術の活用により、優良な乳用後継牛を確保し、受精卵移植技術を活用して計画的な和子牛生産の拡大を図る。
- カ 自給飼料の生産拡大等による土地利用型酪農を推進し、コントラクター、公共育成牧場、ヘルパー制度の利用拡大による作業の外部化を図ることで、余剰労力を飼養管理に集中し、規模拡大を助長する。

② 規模拡大は困難だが経営規模を維持するための取組

- ア 牛群検定への加入（現在14戸）を促進し、牛群検定の活用による乳牛の泌乳能力や供用期間の延長による生涯生産性の向上を図る。
- イ ICT、IoT、AIといった新技術を活用したDX（デジタル化による変革）の実現に向けた取組みを推進し、生産性の向上や生産コスト削減、労働負担の軽減等を図る。
- ウ 法人化の推進等経営支援対策とともに離農・遊休施設の円滑継承等により後継者・担い手を確保、生産基盤の確保に資する。

③ ①・②を実現するための地域連携の取組

- ・協議会を設立し、関係者が地域の課題に即して役割分担・連携し、生産基盤強化に取り組む。

V 国産飼料基盤の強化に関する事項

1 飼料の自給率の向上

| | | 現在 | 目標（平成37年度） |
|-------------|-----|--------|------------|
| 飼料自給率 | 乳用牛 | 24.60% | 50.00% |
| | 肉用牛 | % | % |
| 飼料作物の作付延べ面積 | | 74ha | 89ha |

2 具体的措置

- ・ 自給飼料の生産・調製に係る負担軽減を図るため、コントラクターの活用を推進する。
- ・ 酪農経営の農地の集積・団地化の推進を図るため、地域や集落の合意に基づく土地利用計画の作成や農作業受委託契約の締結を農協等関係団体と連携して支援するとともに、飼料生産請負組織の育成や耕畜連携による資源循環とおした土づくりの取組を促進する。
- ・ 粗飼料については自給を基本として飼料給与の効率化を図るとともに、エコフィードの生産利用については、飼料自給率の向上の観点から、優良事例の紹介により利用拡大に努める。
- ・ 飼料用米の生産・利用を図るため、畜産農家における保管・利用施設の整備を行う。

VI 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置

1 集送乳の合理化

県内の集送乳路線の再編整備やミルクタンクローリーの効率的な運用に協力し、生乳流通の安定とコスト低減を図る。

VII その他酪農生産の近代化を図るために必要な事項

計画期間内に重点的に取り組む事項

【事項番号① 酪農経営の増頭・増産（対象地域：砺波市全域）】

この先はある程度の農家戸数の減少は避けられない。このため、生産拡大意欲のある農家を支援し飼養規模の拡大を図ることは重要である。畜産農家には、地域における中心的な経営体として、耕種農家等と連携し飼料の自給率の向上、大規模に伴う人員体制の充実による労働条件の改善等、現在の酪農経営における諸問題をクリアし規模拡大のメリットが活かせるよう推進する。

【地域や畜種ごとの重点的な取組分野】

（酪農）

農家戸数および飼養頭数は減少傾向であるが、学校向け牛乳や県内消費の生乳生産を賄うために経産牛1頭当たり年間搾乳量や1戸当たり飼養頭数を向上させるために、市及び関係団体は、生産者に対して適正な飼養管理や空きスペースの有効活用を指導する。

また、生産者も牛群検定に加入し、その情報の活用による乳牛の泌乳能力の向上に努める。

【事項番号② 収益性の高い経営の育成・経営資源の継承（対象地域：砺波市全域）】

（1）新技術の実装等による生産性向上

ロボット、ICT、IoT、AI等の新技術を活用したDXの実現による生産性の向上や生産コスト削減、労働負担の軽減等を推進する。

新技術の実装に当たっては、例えば、搾乳ロボットの導入により適切な飼養管理方法が変化することや搾乳ロボットに適した体型の搾乳牛の選抜など、新技術の実装に応じた対応が必要であり、新技術を飼養管理に生かす方法も含めて指導し普及を図る。

（2）既存の経営資源の継承・活用

後継者不在の経営資源を意欲ある担い手へ継承し、活用する取組みを推進する。このため、地域全体で、経営資源を継承する新規就農者等の把握、廃業予定者の把握、遊休施設等の継承に必要となる用地等の調整などへの支援に努める。

（3）経営能力の向上

適切な経営管理を行うためには、法人化等を通じ、意思決定に係る責任やプロセスの明確化、決算書の作成等による経営実態の把握、適切な事業計画及び資金計画の策定が重要であり、経営を担う者が高度な経営力や技術力等を取得するための研修等の機会の活用を推進する。

【事項番号③ 経営を支える労働力や次世代の人材の確保（対象地域：砺波市全域）】

（1）担い手の育成

後継者がいる農家の継承を支援するとともに、法人化の推進や後継者のいない畜産施設と就農希望者とのマッチングを推進し、生産者、市、関係団体が一体となって飼養戸数の減少幅が少なくなるように努める。

（2）労働負担の軽減

コントラクターによる飼料用米のさらなる普及と稲発酵粗飼料（稲WCS）の定着を図りつつ、今後、高齢化の進む酪農家の負担軽減を図る。ヘルパーについては、農家からの要望や利用実態を踏まえ、必要があれば、国の支援制度も活用しながら、市及び関係団体において充実を検討する。特に、酪農経営では、酪農ヘルパーは、休日の確保や傷病時の対応など経営継続に不可欠であり、要員確保、定着の強化に努める。また、畜産農家は、過剰投資とならない範囲での機械導入を検討し、労働負担の軽減や人員の削減に繋げる。

別紙 1

飼料需給の現状と目標

1 現状

| 区分 | 面積 ha | 面積 | | | 生草収量 t | 単収(ha) t | TDN % | TDN量 t | TDN量 kg | 生産量 | | | | 生産量のTDN換算 t | | | | | |
|----------------|----------|------------|----|-----|-----------|-------------|----------|-----------|------------|---------|------|-----|------|-------------|-----|-----|-----|-----|---|
| | | 田 | 畑 | 牧草地 | | | | | | 田 | 畑 | 牧草地 | 合計 | 田 | 畑 | 牧草地 | 合計 | | |
| 飼料作物 (田及び畑) | 牧草 | オーチャード主体 | 0 | | | 0 | 45.0 | 13.3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | スタングラス | 36 | 36 | | 1,260 | 35.0 | 12.2 | 154 | 153,720 | 1260 | 0 | 0 | 1260 | 154 | 0 | 0 | 154 | |
| | | イタリアンライグラス | 36 | 36 | | 1,044 | 29.0 | 10.6 | 111 | 110,664 | 1044 | 0 | 0 | 1044 | 111 | 0 | 0 | 111 | |
| | | 小計 | 72 | 72 | 0 | 2,304 | 34.0 | | 265 | 264,384 | 2448 | 0 | 0 | 2448 | 264 | 0 | 0 | 264 | |
| | トウモロコシ | 0 | | | 0 | 38.0 | 15.5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ソルゴー | 0 | | | 0 | 35.0 | 12.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 稲発酵粗飼料 | 2 | 2 | | 28 | 14.0 | 17.1 | 5 | 4,788 | 28 | 0 | 0 | 28 | 5 | 0 | 0 | 5 | | |
| 飼料用米 | 0 | | | 0 | 6.0 | 80.9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 計 | 74 | 74 | 0 | 0 | 2,332 | | | 270 | 269,172 | 2476 | 0 | 0 | 2476 | 269 | 0 | 0 | 269 | | |
| 河川敷 | 牧草 | イタリアンライグラス | | | 0 | 29.0 | 10.6 | 0 | 0 | | | | | | | | | | |
| その他 (放棄地放牧、放牧) | オーチャード主体 | | | | 0 | 45.0 | 13.3 | 0 | 0 | | | | | | | | | | |
| 小計 | 74 | 74 | 0 | 0 | 2,332 | | | 270 | 269,172 | | | | | | | | | | |
| 農場副産物 | 稲わら | | | | 0 | 4.0 | 14.3 | 0 | 0 | | | | | | | | | | |
| 合計 | 74 | 74 | 0 | 0 | 2,332 | | | 270 | 269,172 | | | | | | | | | | |

2 目標

| 区分 | 面積 ha | 面積 | | | 生草収量 t | 単収 t | TDN % | TDN量 t | TDN量 t | 生産量 | | | | 生産量のTDN換算 t | | | | |
|------------------|----------|------------|------|------|-----------|---------|----------|-----------|-----------|------|---|------|------|-------------|---|-----|-----|---|
| | | 田 | 畑 | 牧草地 | | | | | | 田 | 畑 | 牧草地 | 合計 | 田 | 畑 | 牧草地 | 合計 | |
| 飼料作物 (田及び畑) | 牧草 | オーチャード主体 | 0 | | | 0 | 45 | 12.9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | スタングラス | 43.0 | 43.0 | | 1,806.0 | 42 | 12.2 | 220 | 1806 | 0 | 0 | 1806 | 220 | 0 | 0 | 220 | |
| | | イタリアンライグラス | 43.0 | 43.0 | | 1,462.0 | 34 | 10.6 | 155 | 1462 | 0 | 0 | 1462 | 155 | 0 | 0 | 155 | |
| | | 小計 | 86.0 | 86.0 | 0.0 | 3,268.0 | | | 375 | 3268 | 0 | 0 | 3268 | 375 | 0 | 0 | 375 | |
| | トウモロコシ | 0 | | | 0 | 53 | 15.5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ソルゴー | 0 | | | 0 | 42 | 12.1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 稲発酵粗飼料 | 食用米 | 3.0 | 3.0 | | 51.0 | 17 | 17.1 | 9 | 51 | 0 | 0 | 51 | 9 | 0 | 0 | 9 | |
| 高糖分・茎葉型 | 0.0 | | | 0.0 | 19 | 18.4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 飼料用米 | 0 | | | 0 | 7.0 | 80.9 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 計 | 89.0 | 89.0 | 0.0 | 0.0 | 3,319.0 | | | 384 | 3319 | 0 | 0 | 3319 | 384 | 0 | 0 | 384 | | |
| 河川敷 | 牧草 | イタリアンライグラス | | | 0 | 34 | 10.7 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| その他 (放棄地放牧、放牧) | オーチャード主体 | | | | 0 | 45 | 12.9 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 林地等 | | | | | 0 | 18 | 12.9 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 計 | 89.0 | 89 | 0 | 0 | 3,319 | | | 384 | 3319 | 0 | 0 | 3319 | 384 | 0 | 0 | 384 | | |
| 農場副産物 | 稲わら | | | | 0 | 4.0 | 14.3 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| エコフィールド (豆腐粕+酒粕) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 89.0 | 89 | 0 | 0 | 3,319.0 | | | 384 | 3319 | 0 | 0 | 3319 | 384 | 0 | 0 | 384 | | |

- ・水田飼料作物の作付拡大
 - ・地域水田農業推進ビジョンの中に長期的に位置付けて推進していく。その際、稲作部門と畜産部門との連携・協力体制を構築する。
 - ・ほ場の集積・団地化、耐湿性草種・品種の作付け、
- ・水田裏飼料作物の拡大
- ・稲発酵粗飼料及び飼料用米の作付推進
 - ・トウモロコシ等の一般飼料作物の栽培の困難なほ場条件（湿田、半湿田等の排水不良田・軟弱ほ場等）の下で栽培可
- ・遊休農地等を活用した作付条件の整備
 - ・河川敷、林地、稲わら

別紙2

飼料自給率の現状と目標

| | |
|----------------------------|-------------|
| 年間必要粗飼料TDN×0.518（全体粗飼料自給率） | |
| 畜種別の構成(TDN)都府県（国より） | |
| 酪農 | : 38.1対61.9 |
| 肉用牛繁殖 | : 66.7対33.3 |
| 肉専肥育 | : 13.1対86.9 |
| 乳オス | : 9対91 |

1 現状

| 畜種 | 頭数 ① | 1頭当たり 年間必要 TDN量 ② | 年間必要 TDN量 全体 ③ | 粗飼料給与率 ④ | 年間必要粗飼料TDN量 ⑤=③×④ | 自給飼料から供給されるTDN量 | | | 粗飼料 自給率 ⑨=⑧/⑤ | 飼料自給率 ⑩=⑧/③ | 備考 | | | | | | |
|-----|---------|----------------------------|-------------------------|-------------|----------------------|-----------------|-----------|------------|---------------------|----------------|------|--------------|---------|---------|-------------|-----------|----|
| | | | | | | 粗飼料 ⑥ | 濃厚 飼料⑦ | 計 ⑧=⑥+⑦ | | | | 粗飼料 自給TDN | 県外等 | うち輸入 | 濃厚飼料 県外等 | 飼料 自給率 | |
| 乳用牛 | 成牛 | 206 | 4,727 | 973,762 | 50% | 486,881 | 239,830 | 0 | 239,830 | 49.3 | 24.6 | | 239,830 | 247,051 | 247,051 | 486,881 | 25 |
| | 育成牛 | 68 | 1,752 | 119,136 | 50% | 59,568 | 29,342 | 0 | 29,342 | 49.3 | 24.6 | | 29,342 | 30,226 | 30,226 | 59,568 | 25 |
| | 計 | 274 | 6,479 | 1,092,898 | — | 546,449 | 269,172 | 0 | 269,172 | 49.3 | 24.6 | | 269,172 | 277,277 | 277,277 | 546,449 | 25 |

2 目標

| 畜種 | 頭数 ① | 1頭当たり 年間必要 TDN量 ② | 年間必要 TDN量 全体 ③ | 粗飼料給与率 ④ | 年間必要粗飼料TDN量 ⑤=③×④ | 自給飼料から供給されるTDN量 | | | 粗飼料 自給率 ⑨=⑧/⑤ | 飼料自給率 ⑩=⑧/③ | 備考 | | | | | | |
|-----|---------|----------------------------|-------------------------|-------------|----------------------|-----------------|-----------|------------|---------------------|----------------|------|--------------|-----|------|-------------|-----------|--|
| | | | | | | 粗飼料 ⑥ | 濃厚 飼料⑦ | 計 ⑧=⑥+⑦ | | | | 粗飼料 自給TDN | 県外等 | うち輸入 | 濃厚飼料 県外等 | 飼料 自給率 | |
| 乳用牛 | 成牛 | 236 | 5,220 | 1,231,920 | 50% | 615,960 | 615,960 | 0 | 615,960 | 100.0 | 50.0 | | | | | | |
| | 育成牛 | 75 | 1,752 | 131,400 | 50% | 65,700 | 65,700 | 0 | 65,700 | 100.0 | 50.0 | | | | | | |
| | 計 | 311 | 6,972 | 1,363,320 | — | 681,660 | 681,660 | 0 | 681,660 | 100.0 | 50.0 | | | | | | |